

開催目的

本道交通を取り巻く環境の変化に的確に対応し、道民をはじめ各事業者など**多様な主体が連携した交通・物流に関する施策を一体となって推進**し、本道の更なる発展を支える交通ネットワークを実現するため、北海道交通政策総合指針に定めるところにより、「北海道交通・物流連携会議」を開催する。

開催概要

開催日：令和4年5月25日（水）

出席者：北海道大学 吉見副学長（座長）、北海道大学 岸教授、北海道バス協会、北海道トラック協会、北海道通運業連盟、北海道通運業連合会、北海道地区レンタカー協会連合会、北海道旅客船協会、北海道港運協会、北海道旅客鉄道（株）、全日本空輸（株）札幌支店、北海道エアポート（株）、東日本高速道路（株）北海道支社、日本貨物鉄道（株）、北海道経済連合会、北海道観光振興機構、ホクレン農業協同組合連合会、北海道漁業協同組合連合会、北海道運輸局、北海道開発局、東京航空局新千歳空港事務所、札幌管区気象台、札幌市、北海道

- 内容：【議事】 ○ 安全・安心な輸送の確保の徹底について
 ○ 北海道交通政策総合指針重点戦略の取組について
 ○ **意見交換**
- 【報告】 ○ 物流対策WGの取組状況について
 ○ 情報共有・対応強化WGの取組状況について

主な意見



① シームレス交通戦略

- ぐるっと北海道公共交通利用促進キャンペーンはコロナで大変厳しい中、流動を促進する上で、大きなエンジンになっており大変感謝している
- ICT活用検討会を開催し、キャッシュレス決済の検討を進めていきたい



② 地域を支える人・モノ輸送戦略

- 労働環境改善のため物流の効率化に努めているが賃金面での対応も必要となり課題となっている
- 一貫パレチゼーションは、パレット紛失や産地での設備投資という課題があるが、関係者が問題を共有し、ともに取り組んでいく必要がある



③ インバウンド加速化戦略

- 世界から選ばれ続けるための要因に「エコ」と「ユニバーサル」があり、先進諸国では、訪問する土地の必要条件、決定条件になりつつある
- 交通は「ユニバーサル」に対するハードルが高いので、関係者との連携で取組を進めていきたい



④ 国際物流拡大戦略

- 観光プロモーションを合わせた物産・PRなど、ハイブリットの今までにない取組が必要
- 海上輸送と陸上輸送をつなぐ港湾での荷揚げ作業というところで、物流の連携を進めていきたい



⑤ 災害に強い交通戦略

- 大雪時のバスの増便のためには、運転手確保の必要があり、できるだけ早く情報を出してほしい
- 大雪時などの情報の早期共有、代替交通の確保は課題であり、改善に向けて検討したい
- 大雪時の強靱なネットワークの構築が必要



⑥ ウィズコロナ戦略

- コロナ前以上の質の向上・受入体制の強化が必要
- 一過性の交流人口ではなく、関係人口の拡大（ワーケーションや地元との交流）というところで、北海道のファンを作る新たな需要開拓を図っていきたい

<全体に対して>

- 令和4年度の各主体の取組については、それぞれに因果関係があり、それぞれの取組間の連携の強化というところが大切であり、引き続き、関係者で協力して進めてもらいたい
- 他の方の意見や取組をお聞きいただき、その連携をさらに深めていくことが必要

今後の予定

- 開催結果を北海道運輸交通審議会に報告し、さらなる一体的な施策推進を議論
- 各WGの取組や感染症をはじめとする様々な状況変化を踏まえ、必要に応じて開催